



2009年12月15日発行(隔月刊)

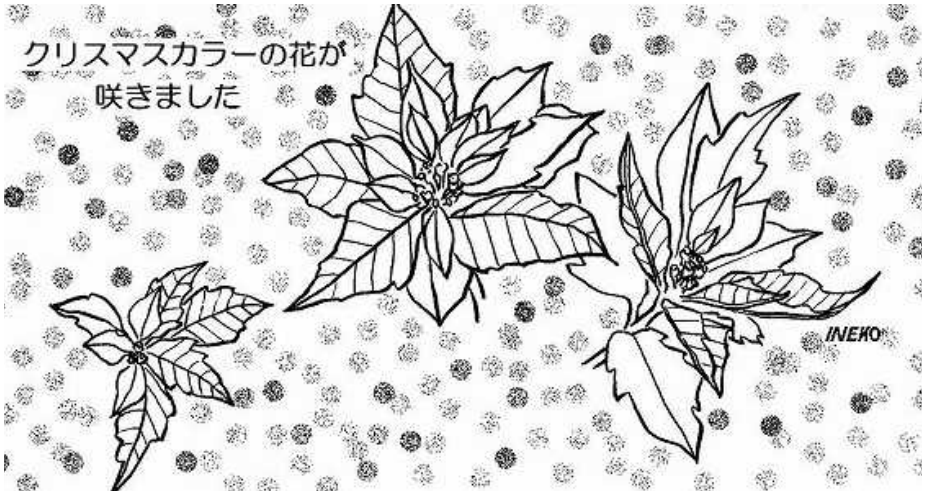


う 羽 化 か

ISSN1880-8646
2009年12月
第77号

横 浜 漢 点 字 羽 化 の 会
〒231-0851 横浜市中区山元町2-105 Tel 045-641-1290
発行責任者 代 表 岡 田 健 嗣
編集責任者 木 下 和 久

クリスマスカラーの花が
咲きました



目 次

漢点字の散歩 (16) (岡田健嗣)	1
点字から識字までの距離 (73) (山内 薫)	6
朝日新聞記事から「漢点字 世界が色づく」	8
点字公明記事から「言葉の世界、広がる漢点字」	10
C S 通信記事から「社会実習を終えて」	13
例会報告とわたくしごと (木村多恵子)	14
東京漢点字学習会報告 (菅野良之)	17
見果てぬ夢を (18) (山本優子)	20
漢点字訳書紹介「詩的リズム」	23
ご報告とご案内	25
漢文のページ	27
漢点字講習用テキスト(初級編・第17回)	30

漢点字の散歩 (十六)

岡田 健嗣

五 点 字



本稿では、〈点字〉をご存じない皆様も、点字をパターンとしてお受け止めただけであれば充分です。点字で何が書かれているかを読み取る必要はありません。

2 ドイツ語点字 (4)

* 本稿では、ドイツ語の点字表記をご紹介しますのだが、ドイツ語の表記について、二つの約束事を決めておきたい。一つは、*ä*・*ö*・*ü*のウムラウト(変音)である。通常タイプライターでは、*e*を後置して表すので、ここでもそれに倣う。従って、*ae*・*aeu*・*oe*・*ue*という表記になる。またドイツ語では“*sz*”を一文で表すが、通常タイプライターでは、*B*を代用して当てる。しかし本稿では本来の“*B*”との混同を避けるために、“*B*”を使用する。従って、“*B*”が現れたときは、“*sz*”と読み替えていただきたい。

本稿・前三回において、ドイツ語点字の表記法をご

紹介して来たが、その骨組みはほぼ出尽くしたものと思われる。と言うのは、残る略字は「二マス略字」と呼ばれて、単語と語幹を二つの点字符号で表そうというものである。そこに使用される点字符号は、その単語や語幹を構成するアルファベット、拡張アルファベット及び音節略字である。ドイツ語の文章を点字で表記すると、この二マス略字が存在感を發揮するが、その数は百五十余りに過ぎない。単語・語幹を網羅することはできない。つまり文章を構成する本当の主役は、依然としてアルファベットと拡張アルファベット、並びに音節略字なのである。言い換えれば、文章はアルファベット、拡張アルファベット、音節略字で綴られていて、その合間に他の略字が現れると見るのが正しい。従って、文章を触読する中で、これらの区別に、決して混乱があつてはならない。アルファベット、拡張アルファベット、音節略字で構成された単語・語幹と、略字で表された単語・語幹とが、誤りなく、即時に触知される構成である必要があるのである。

そこで今回は、これまでのご紹介を振り返ることから始めたい。

a. アルファベットと拡張アルファベット

一般にアルファベットは二十六文字であると言われ

ルイ・ブライユの点字表

1 :	1 Aa	2 Bb	3 Cc	4 Dd	5 Ee	6 Ff	7 Gg	8 Hh	9 Ii	10 Jj	Upper4
2 :	11 Kk	12 Ll	13 Mm	14 Nn	15 Oo	16 Pp	17 Qq	18 Rr	19 Ss	20 Tt	+ ⠠
3 :	21 Uu	22 Vv	23 Xx	24 Yy	25 Zz	26 ge	27 es	28 em	29 β	30 st	+ ⠠
4 :	31 au	32 eu	33 ei	34 ch	35 sch	36 ein	37 er	38 ue	39 oe	40 Ww	+ ⠠
5 :	41 ,	42 ;	43 :	44 un	45 or	46 an	47 eh	48 te	49 in	50 ar	Lower4
6 :	51 aeu	52 ie	53 ich	54 ae	55 des	56 im					
7 :	57 ig	58 lich		60 ck	61 ach	62 ach	63 .				

る。しかしこんなのもあってよいのではないかと思われるものもある。英語で言えば、hが後ろに来る`ch、gh、sh、th、wh`などである。ドイツ語では墨字でも`sz`を`β`の一文字で表して、点字符号では、⠠が当てられる。また、母音`a、o、u`の変音（ウムラウト）もそれぞれ`ae、oe、ue`の点字符号が当てられる。ドイツ語の点字にはそれに加えて、子音の`ch、sch、st`と重母音の`au、aeu、ei、eu、ie`の八個を一つの点字符号で表すことにして、アルファベットと同様に使用することにした。本稿ではこれらを「拡張アルファベット」と呼ぶことにした。このアルファベット、拡張アルファベットを加えると、計三十八文字となる。このような拡張アルファベットは、英語点字では略字に含まれるが、ドイツ語点字では、略字ではなく、アルファベットの範疇に数えられる。

b. 音節略字

略字の中で最も基本的なものがこの「音節略字」である。

ach: ⠠⠠⠠ a: ⠠ an: ⠠ ar: ⠠ be: ⠠ ck: ⠠ eh: ⠠

ein:iel 'y. em: en 'c. er: es: ge: ich:
ig:

in: lich: ll 'q. mm 'x. or: te: un:

ドイツ語では単語を三つの部分に分けて、その音を「語頭音、語中音、語末音」と呼ぶ。ここに挙げた音節略字は、点字符号の“lower4”と“right3”を含んでいる。これらは一義的には句読符号や点字特有の指示符号として用いられるものである。そこで音節符号とその他の符号との混同を避ける目的で、音節符号として使用される場合は、語頭音あるいは語末音には用いられないか、あるいは語中音のみに使用されるという規定が設けられている。またドイツ語の現代表記では使用頻度の少ない文字“c, p, x, y”が、それぞれ“ch, ll, mm, ei”を表す略字として使用されることも特記されてよい。

さらにこの音節略字の多くは、アルファベット及び拡張アルファベットと同様に扱われて、一マス略字として、あるいは二マス略字を構成する符号として使用される。その意味では「これらを「拡張アルファベット」に含めてもよいのかもしれない。しかしアルファベットは「音素」であることや、語に占める位置によって使用に制限があることなどから、アルファベットとは隔てられて扱われるのであろう。

c. 前綴りと後綴り

ドイツ語の単語には語幹の前後にその語を性格づける音が付くことがある。前の綴りを「前綴り」、後の綴りを「後綴り」と呼ぶ。この前綴りと後綴りを略字化した点字符号が、「前綴り略字」と「後綴り略字」である。

前綴り略字：

aus:, ent:, ex, x pro, q ver:,

これらの点字符号が語頭にある時は、それぞれの綴りの略字となる。

後綴り略字は、三つのグループに分けられる。(詳細は前号をご参照下さる。)

後綴り略字グループ 一

haft, hf heit, h keit, k nis, x
sam:, schaft:, ung' u

後綴り略字グループ 二

fall:, f mal, m waerts, w

後綴り略字グループ 三

ation:, in ativ, v ismus:, i istisch,
:, itaet:, ion, j

これらの点字符号が語幹に続いて、あるいは他の後綴り略字に続いてある場合は、それぞれの綴りの略字となる。

d. 一マス略字とコンマ略字、及び語幹略字

(略字の数が多数に及ぶので、ここでは例示は省略する。詳細は前号をご参照下さい。)

一マス略字・

一マス略字は、単語あるいは語幹を一マスの点字符号で表す略字である。

ドイツ語の単語は、定冠詞や前置詞や副詞のように語尾の変化のないものや、複合語を形成しないものと、格変化や活用などで盛んに語尾変化するものや、大いに複合語の要素となるものがある。そこでこの一マス略字を三つのグループに分ける。

第一のグループは、独立した語としてのみ働く単語を表すもので、例えば、*r* (der)、*s* (sie)、*di* (die)、*h* (hat) などがあ

る。第二のグループは、盛んに複合語の要素となる語を表す。例えば、*b* (bei)、*q* (voll)、*ueber* (über)、などである。複合語を作る時には、一マス略字であることを宣言する告知符号 (二の点) を前置して表す。ドイツ語の特徴は豊かな造語力であるが、これらの略字は、それに応じられるグループである。

第三のグループは、格変化語尾、あるいは活用語尾だけ取る略字である。数は少なく、*h* (hatt)、*haett* (haett)、*i* (ihr)、*y* (wetch)、*sein* (sein) の五個である。しかしこのグループは、これに続くコンマ

略字と同様に働く略字のグループである。

コンマ略字・

一マス略字の第二のグループは、他の文字や略字と続く時に、告知符号 (二の点) を前置して略字であることを指示する。この場合指示するのは、一マス略字の第二のグループのみである。第一・第三のグループは指示しない。従って第一と第三のグループの点字符号にこの告知符号 (二の点) を前置すれば、新たな略字が構成されることになる。この略字には第一のグループから十六個、第三のグループから四個、そして音節略字から三個の略字が当てられた。例えば、*der* は一マス略字では *der* であるが、コンマ略字では *der*、*fahr* を表す。*s* は一マス略字では *sie* であるが、コンマ略字では *s*、*soil* を表す。*spiel* は一マス略字では *spiel* であるが、コンマ略字では *spiel* を表すのである。このようにコンマ略字は、一マス略字の第三グループと同様の働きをする。

語幹略字・

もう一つ、一マス略字に格変化語尾や活用語尾が続く時、一マス略字とは別の語を指示する略字がある。例えば、*die* は、一マス略字では定冠詞 *die* を表すが、これに格変化語尾が付くと *dies* と読まなければならない。*diese*、*diesen*、

⊙ (dieses)、となる。(詳細は前号をご参照下さい。)

以上が、前回までのまとめである。

⑧ ニマス略字

ドイツ語点字の略字法 (“Kurzschrift”) のご紹介は、以上で山を越えたと言ってよい。今回の冒頭でも述べたように、ドイツ語の文章を点字で表す時、その大方をこれからご紹介するニマス略字が占めている。このニマス略字が、ドイツ語点字の主役のように見える。しかしそれは錯覚であって、実際は依然として三十八個のアルファベット、拡張アルファベットと、二十三個の音節略字 (“c, q, x, y” の四文字は、重複している。)、計五十七個の点字符号によって組み立てられているのである。

また定冠詞や前置詞、その他の重要な語は、約百個の一マス略字、コンマ略字、語幹略字、前綴り・後綴り略字で表される。

これからご紹介するニマス略字は、従って、単語や語幹を二つの点字符号で表すだけの働きをするものと理解してよい。表記の枠組みは、これまでにご紹介した略字の表記法に従っている。ただしその数が百五十余りと多数に登っていて、その単語一つ一つを読みこなせなければ、文章を読むことができない。これを習

得しなれば、ドイツ語点字を読むことはできない。しかしその構造も働きも極めて明解であるので、私たちは英語点字の習得でも経験していることだが、既にご紹介した略字とニマス略字を習得することが、ドイツ語の基本構造と、数百に登る単語を身に付けることになる。

本稿ではニマス略字の全てをご紹介することはしない。単語の要素二つを取り出して、ニマスの点字符号で表され、格変化語尾、活用語尾、前綴り・後綴りが、単語と同様に接続されることをご存じいただければ充分である。例：

ao	also	bl	blind	bg	bring	kk	chara
cter	db	dabei	dm	damit	dt	demokrat	
d	Deutsch	eo	ebenso	jr	jahr	kx	komm
kz	kurz	nh	nehm	st	schrift	s	sel
bst	rk	republik	wd	wieder	w	b	arbeit
D	deutschen	blinden	kurzschrift				
ds	Aufwiedersehen						

“Leitfaden der Blindenvollschrift” und “Kurzschrift” 1973 Blindenstudienanstalt Marburg La hn)

(続へ)

点字から識字までの距離（七三）

著作権法改正（下）

山内 薫（墨田区立あずま図書館）

今回の著作権法改正ではこの他に第三七条第二項が（聴覚障害者のための自動公衆送信）から（聴覚障害者等のための複製等）に変わり、次のようになる。

「第三七条の二 聴覚障害者その他聴覚による表現の認識に障害のある者（以下この条及び次条第五項において「聴覚障害者等」という）の福祉に関する事業を行う者で次の各号に掲げる利用の区分に応じて政令で定めるものは、公表された著作物であつて、聴覚によりその表現が認識される方式（聴覚及び他の知覚により認識される方式を含む）により公衆に提供され、又は提示されているもの（当該著作物以外の著作物で、当該著作物において複製されているものその他当該著作物と一体として公衆に提供され、又は提示されているものを含む。この条において「聴覚著作物」という。）について、専ら聴覚障害者等で当該方式によっては当該聴覚著作物を利用することが困難な者の用に供するために必要と認められる限度において、それぞれ当該各号に掲げる利用を行うことができる。ただし、当該聴覚著作物について、著作権者又はその許諾

を得た者若しくは第七五条の出版権の設定を受けた者により、当該聴覚障害者等が利用するために必要な方式による公衆への提示が行われている場合は、この限りでない。

一 当該聴覚著作物に係る音声について、これを文字にすることその他当該聴覚障害者等が利用するために必要な方式により、複製し、又は自動公衆送信（送信可能化を含む。）を行うこと。

二 専ら当該聴覚障害者等向けの貸出の用に供するため、複製すること（当該聴覚著作物に係る音声を文字にすることその他当該聴覚障害者等が利用するために必要な方式による当該音声の複製と併せて行うものに限る。）

この条項に対して日本図書館協会は以下のような要望を提出している。

二・一 法第三七条の二に「福祉に関する事業を行う者で次の各号に掲げる利用の区分に応じて政令で定めるもの」とあり、二つの利用区分が設けられるが、公立図書館においては既に字幕ビデオを製作している館があることや、今後、障害者へのサービスを大きく進展していく必要性があることを考慮し、図書館を一号、二号両号で指定すること。

二・二 同条、「ただし、当該聴覚著作物について、著作権者又はその許諾を得た者若しくは第七九条

の出版権の設定を受けた者により、当該聴覚障害者等が利用するために必要な方式による公衆への提供又は提示が行われている場合は、この限りでない。」に關して、下に掲げた方策等により、現状の障害者への情報提供体制を下回ったり、限定的なサービスしかできなくなってしまうたりすることがないように配慮すること。

(一) 図書館などが製作を開始した後に、「提供又は提示」がされることのないよう、出版社等に情報開示の指導等を行うこと。

(二) 価格上の問題で、実質的に購入できなくなった、購入量が減少したりし、結果として障害者への情報提供が阻害されることのないように、原本となる字幕等のない映像資料の価格と比較して適正な価格となるように指導等を行うこと。

三 営利を目的としない上演等（法第三八条第五項関係）

三. 一 図書館が字幕ビデオなどを貸し出す場合、障害者への情報提供のサービスに支障が生じないよう補償金を実質的に支払わなくても良いようにするなど配慮すること。

※ここでは、映像に字幕や手話を入れることが可能になり、そうした資料を複製したり貸し出ししたりすることができ、それができる施設に公立図書館も入ることになる。一

九九八年の障害者サービス全国実態調査では、わずか一館が字幕入りビデオを制作したと回答しているのみであるが、例えば大阪府の枚方市立図書館には、日本手話を第一言語とする図書館員がおり、手話字幕入りビデオを制作しているし、仄聞するところによれば、全国の新しくできた複数の図書館に、ビデオに字幕を入れる装置が設置されていると聞いている。今後は、すべての公立図書館が、「聴覚障害者その他聴覚による表現の認識に障害のある」人に対して音声を文字にしたり手話にしたりするサービスを行わなければならなくなると言ってもよい。現在公立図書館で貸し出されているビデオやDVDは著作権の關係から補償金を支払ったものでないと自由に貸し出しすることができない。現状では図書館で購入するビデオやDVDは原価の数倍の補償金を支払って購入しているのが現実である。しかし、聴覚障害者用の字幕ビデオ・DVD等に関して補償金を支払わなくても良いようにしてほしいというのがこの要望である。

また字幕入りビデオといっても洋画など通常のせりふを翻訳しただけの字幕は、聴覚障害者用字幕とは言えない。洋画に付いているような字幕は一般の人向けの字幕であつて、聴覚障害者用の字幕はまた違ったものが必要である。例えば犯人が部屋に入つていつてドアが閉まり、ピストルの発射音がすれば、私たちは、

そこで誰かが撃たれたということが分かるが、ピストルの発射音が聞こえない人にとっては、何が起こったのかが分からない。従って聴覚障害者用の字幕では、ピストルが発射されたことを文字で伝えなければならぬ。また、物語の進行に大きな役割をする風の音なども文字で表さなければならぬ。そうした意味で聴覚障害者用の字幕はオリジナルなものである。

以上のように今回の著作権法の改正は読むことや聞くことに障害のある人々を非常に広範囲に対象とし、しかも今後現れるであろう媒体も含めて一人一人の読むこと、聞くことの障害に合った媒体による複製を容認している点で画期的な改正である。

今までの公立図書館の障害者サービスはほとんどが視覚障害者へのサービスであったといっても過言ではない。それ以外の読むことに障害のある人々に対する施策については、残念ながら少数の実践があるだけで、ほとんど取り組まれなかった。しかし今回の改正によって様々な読むこと、聞くことの障害に対して公立図書館が政令で定められた施設になれば、今までのようにそうした障害に無関心ではいられなくなる。公立図書館は様々な読むこと聞くことの障害を解消していく責任を公的に負ったということになるのだ。

朝日新聞記事から

ニッポン 人脈記

漢字の森深く 4

漢点字 世界が色づく



左は、朝日新聞11月30日の夕刊の、「ニッポン人脈記」の欄に掲載された記事を、転載させていただきます。川上先生並びに村田先生とともに、本会の活動をご紹介いただきました。ご執筆の白石様には、ご丁寧なご取材に、心より感謝申し上げます。また、朝日新聞社様には、転載へのご快諾に、深く御礼申し上げます。

盲学校を農学校と聞き間違えなかったら、川上泰一の人生は変わっていただろう。

戦後の食糧事情が厳しい1949年。農学校の教師の口を知人が世話してくれた。「これで食い物は大丈夫」。ところが訪ねたら大阪府立盲学校だった。やむなく物理の教師になる。戦時中は航空エンジニアで、視覚障害者の教育は素人だった。

鍼灸師をめざす生徒は百会など難しいつぼの名前を覚える。「目が見えんに漢字どないしてんの」。川上が尋ねると「漢字ってなんや」「えっ、知らんの

か」。心底、驚いた。

点字は1文字が1ます六つの点からなり、仮名やアルファベットを表す。漢字は無縁だ。

「ならばおれが漢字の点字を作る」。点字さえよく知らないのに宣言した。あきれた同僚がつけたあだ名は大風呂敷。

最も苦労したのが仮名と漢字の区別だ。考えごとと没頭して道端の溝に落ちた。「そうだ、六つの点の上に、漢字であることを示す点を二つ置こう」。しかし1ます八つも点がある点字を指で本当に読めるのか。生徒が実験に協力してくれた。

漢字は何千何万もある。まず一つだけでは表し切れない。「木」は1ますだが、「林」ならば2ます分、「湘(しょう)」ともなれば3ます分を使う。川上漢点字は70年に発表された。

「日本語がこんなに豊かだったなんて」「難しい漢方用語がよく理解できる」。学んだ人たちから喜びの声が届く。

川上は94年に77歳で逝った。臨終の病床で、漢点字を打つためのキーボードを必死にたくしぐさを見せた。戒名は漢点院修徹日泰居士。

妻のリツエ(85)が遺志を継いだ。大阪府吹田市の自宅で、日本漢点字協会を切り回している。ロシア文

学者亀山郁夫(60)の新訳「カラマゾフの兄弟」の漢点字訳が、10月に完成したばかりだ。全43巻、積み上げれば高さ2メートルを超える。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

東京都墨田区の鍼灸師岡田健嗣(60)は強度の弱視に生まれ、19歳で失明した。

子供の時、大人が「ボジョウはいいい映画だ」と話していた。ボジョウって何だ。漢字を知らないことが苦しくてならない。盲学校でお経を暗記するようにつばの名前を覚えた。明治学院大では経済学を学んだ。

29歳で漢点字と出会う。川上が書き取り問題を添削してくれた。「無理に覚えなくていい。忘れたら調べなさい」。優しい励まし忘れられない。

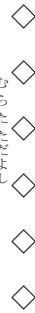
漢字の豊かな表現力を知って岡田の世界は一変する。「すべてが白黒から極彩色に変わったようでした。漢点字を知らなかった時期の記憶が消えちゃったほんです。ボジョウも、そうか慕うに情けだったのか」と

96年にボランティア団体「横浜漢点字羽化の会」を作った。漢字の羽で自由に飛ぼう。そんな思いをこめて。漢点字の表現力を追究したくて、「論語」や中国文学者白川静しろかわしずかの字書「常用字解」などを訳してきた。

朝日歌壇の短歌も漢点字訳している。自称ホームレスの歌人公田耕一の作品が好きだ。

パンのみで生きるにあらず配給のパンのみみにて一日生きる

こんな歌と出合うたび、漢字が読める喜びをかみしめる。



横浜国立大教授の村田忠禧（63）は91年、漢点字が読める全盲の学生に中国語を教えたのが縁で、漢点字の世界に入る。学生のために4年かけて漢点字版の漢和辞典を作った。川上と岡田が協力してくれた。

現代中国論が専門。中国や台湾の点字は日本の仮名点字と同じく発音しか表せず、漢字は表現できない。

「川上漢点字の考え方を生かし、日中共同で中国語版の漢点字を作り、漢字の母国に恩返ししたいですね」

全国に約30万人いる視覚障害者の中で点字が読める人は約3万人。川上漢点字となると1千人弱しかない。覚えやすい仮名点字で十分という人は多く、点字離れも進んでいる。

川上はよく語った。「漢点字の学習は登山に似て苦しい。しかし山頂には文化の光が満ちあふれている」。漢字の光を一人でも多くに。村田は願う。

（白石明彦）

点字公明記事から

“言葉の世界” 広がる漢点字

左は、公明党の点字機関誌「点字公明」11月号に掲載された記事を転載させていただくものです。点字誌で漢点字が取り上げられることは、極めて稀有なことです。我が国の視覚障害者の識字を考えるとという意味では、このような試みは大変貴重なものです。心より御礼申し上げます。今後多方面のメディアにおかれましても、拘りを持たず、虚心に、ご検討・ご研究いただけることを、願って止みません。公明新聞様には転載をご快諾いただきましたことに、深く感謝申し上げます。末筆ではございますが、横浜市議の大滝先生には、大変お骨折りいただきました。ありがとうございます。

漢字を点字で表す「漢点字」の普及に努めているボランティアグループ「横浜漢点字羽化の会」の代表、岡田健嗣さんに、豊かな表現力を持った漢点字の魅力について聞きました。

漢字の意味や成り立ちを表す

漢点字は、今からちょうど40年前に大阪府立盲学校

教諭だった故・川上泰一さんが考案したものです。従来の仮名点字が1マス6点(縦3点、横2点)でできているのに対し、漢点字はこの6点の上に漢字の始まり(始点)と終わり(終点)を示す2点(漢点字符号)を加え、1マス8点(縦4点、横2点)で構成されています。

漢点字の特徴は、仮名点字の体系を生かしつつも、仮名点字のように単語の「音」を表すのではなく、漢字の意味や成り立ち、構成を表している点です。例えば、「品物」の「しな」の場合、通常の仮名点字が「し」と「な」と表記するところを、漢点字は「くち」という漢字を三つ並べ、「しな」の漢字そのものを表します。

また、漢字と同様、1つの漢点字に複数の読み(音訓)があり、目の前の「もく」、目玉の「め」は同じ漢字なので1つの漢点字で表記されます。一方、「天国」「地獄」「極楽」の「ごく」は同音異義語なので、別々の漢点字で表記されることとなります。

岡田さんは、「『かなしい』という表現一つを取っても、悲劇の『ひ』という漢字を使った『悲しい』と、哀愁の『あい』という漢字を使った『哀しい』では、そこに込められている筆者の思いも意味も違うでしょう。曖昧模糊(あいまいもこ)としていた言葉がすっきりと整理して理解できるようになった」と述べ

ています。

日本語本来のリズムを味わえる

漢点字には、いくつかのルールがあります。仮名点字の「き」に漢点字符号(始点と終点)を加えて漢点字とした場合、植木の「き」という漢字を表します。同様に、仮名点字の「た」に漢点字符号を加えたものは、田畑の「た」という漢字になります。

漢点字には、こうした1マスで1つの漢字を表すものが57個あります。そして、それらが部首にもなり、最大3マスまで組み合わせることで、常用漢字(1945字)を含む6000以上の漢字を表します。併せて、ひらがなとカタカナの区別も付けられるようになります。

漢点字によって視覚障害者も、仮名点字特有の「マスあけ」(分かち書き)から解放され、漢字・ひらがな・カタカナの交じった日本語本来のリズムを味わうことができるようになります。漢点字の具体例を別紙として最終ページに挟んでありますので試してみてください。

意味が分かれば発音も変わる

岡田さんが漢点字と出会ったのは今から30年前の29歳の時でした。岡田さんは「『漢点字を習得して、何が変わったのか』とよく聞かれるが、何から何まで変

わった。自分の名前を漢字で書きたいという願いも叶うことができた」と語っています。

その後、通信教育で漢点字を学んだ岡田さんは、漢点字の魅力を多くの人に知ってもらおうと1996年、漢点字を学ぶメンバーらとボランティアグループ「横浜漢点字羽化の会」を発足。漢点字訳書の作成、学習会の開催、機関紙『うか』（無料）の隔月発行などに取り組んでいます。

漢点字訳書の作成では、翌97年に漢和辞典『漢字源』の点字版全90巻をわずか半年余りで完成させたのははじめ、毎年1、2冊ずつ製作を続けています。点字版『漢字源』は、横浜市政会公明党の大滝正雄議員が橋渡し役となつて横浜市中央図書館に寄贈され、一般市民も閲覧できるようになっています。

現在は、常用漢字の基本字典『常用字解』（白川静著）の漢点字訳に挑戦中で、前半部はすでに完成し同図書館に寄贈され、後半部も年明けに完成・寄贈される予定です。また、人名用漢字の基本字典『人名字解』（同）の編集も進めています。

学習会は、横浜市健康福祉総合センター（同市中央区）で隔月開催されています。参加は自由で、岡田さんの作ったテキストで漢字の意味や成り立ち、漢点字の書き方を1文字ずつ学んでいます。参加者の女性は「漢字の意味が分かれば発音も変わる。言葉の世界が広がっていく」と漢点字の奥深さを教えてくれます。

た。
左に漢点字の具体例として添付した資料の一部を示します。

かんでんじの ぱたーん

1ます かんでんじ 2ます かんでんじ

3ます かんでんじ

ぶんの れい：

(いぬと いっしょにさんぽした。)

1ます かんでんじ (おん・くんの じゅん)

もく め。ぜん じ。だま あみの。

もく ぼく き こ。ざい。うえ。のは。

でん た。えん すい。はた うえ いな。

しゅ て。じゅつ せん。がみ はたらき。

じん にん ひと。にほん げん。ごみ。

すい みず。しつ。がめ のみ。

し わたくし。がく ぶつ。ごと。

しん ところ。ぞー ぱい あん。づよい。

2ます かんでんじ (ふたつの よーそ)

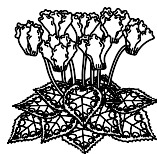
(へんの みぎがわに) そー あい。だん

ば すみません。(以下省略)

学生紹介

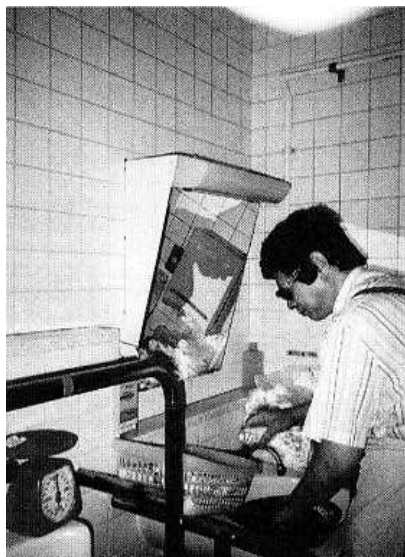
社会福祉実習を終えて

東京都 岡田 健嗣



左は、NHK学園の通信誌「CS通信」から転載させていただくものです。この初秋に岡田が、東京都墨田区にごいます特養老人施設「東京清風園」で、社会福祉の実習を受講させていただきました折りの感想文です。十日間ではありましたが、職員の皆様には、大変お世話をおかけ致しましたが、こと、また大変よくしていただきましたことに、心より御礼申し上げます。またNHK学園様には、普段からお世話をおかけしておりますこと、並びに記事の転載をご快諾いただきましたことに、深く感謝申し上げます。

私は、2005年に成立した障害者自立支援法に基づいて、障害者のガイドヘルプ事業を起しました。介護福祉士は、この事業に欠かせない資格であり、介護福祉士受験資格獲得を目標に一念発起して専攻科に入学しました。



おしぼりとうけ皿洗い
をしている岡田さん

社会福祉実習は、8月末から9月にかけて、行ないました。高齢者の介護現場は初めての体験で、利用者との関わりがなかで、想像していたことと現実との乖離に思わず尻込みをするような思いもしました。

私は視覚障害者ですので、実習にはガイドヘルパーに同行してもらいましたが、ガイドヘルパーとともに勉強をするというのも、私にとっては貴重な経験となりました。

テキストやレポート課題から学ぶものとは異なる自分の体験からの学びは、現場実習だからのものであり、これからの私の仕事や人生に活かしていければと思っております。

「東京漢点字羽化の会」例会報告と

わたくしごと

木村 多恵子

第47回例会 2009年10月7日(水) 13:30～

15:30、ヒューマンプラザ第1会議室

台風18号が近づき、状況によっては会を早めに切り上げなければならぬか、と心配したが、幸いこの日は雨も普通の傘を使う程度で済んだ。ところが翌日の8日は、東京近郊は交通が寸断されて電車の中で5時間も缶詰め状態にされた方々がいたと聞き、会としては一日違いで今回は助かったと思った。もともと近畿地方の被害はもつと大きかったとの報道である。

今日も漢文の書き方と「博物館」の入力方法について、既に作られたものを使って、岡田さんが詳細に具体的に説明した。

第48回例会 2009年11月11日(水)、13:30～

15:30、ヒューマンプラザ第2会議室

「漢文の読み方を実際に入力していくと、墨字原本では沢山の記号を使っていることが分かった。しかし、点字に置き換えたとき、あまり複雑に記号がある

のは読みづらいこともあって、岡田さんを初めみんなで頭を悩ました。

「博物館」の方も少し検討をはじめたが、こちらは全く時間が足りなかった。

* 予告

12月の例会(第49回) 2009年12月9日(水)

13:30～15:30、7階集会室(畳の部屋)

第33回学習会 2009年12月19日(第3土曜日)

17:30～20:30ヒューマンプラザ7階第1会議室

2010年1月の例会(第50回) 2010年

1月13日(水) 13:30～15:30 7階第1会議室

第34回学習会 2010年1月23日(第3土曜日)

18:30～20:30ヒューマンプラザ7階第1会議室

2010年2月の例会(第51回) 2010年

2月10日(水) 13:30～15:30 7階第1会議室

第35回学習会 2010年2月20日(第3土曜日)

18:30～20:30ヒューマンプラザ7階第1会議室

わたくしごと

地歌箏曲に「残月」という曲がある。作曲者の峯崎みねざき勾当こうたうの門人に、宗右衛門町の松屋某の娘がいた。その娘は才媛であったが若くして世を去った。その追善供養につくられたのがこの曲だと伝えられている。

峯崎勾当は、初代豊賀檢校の弟子で、大阪で活躍した。三弦の名手であり、優れた作曲家で、今なお沢山の曲が、各流派で演奏されている。しかしながら確実な生没年は分かっていない。ただ、恩師の豊賀檢校のための追善曲「袖香炉」が天明5（1785）年につくられ、文政4（1821）年には、上方の歌舞伎役者嵐璃寛のための追善曲「袖の香」がつくられて

いることは分かっている。
中塩幸祐氏は、勾当は生涯独身で通したのではないかと推察している。なぜなら、彼の作品以外、私的なことはなにも分からないのだと言う。

「残月」の歌詞

磯辺の松に葉隠れて、
沖の方へと入る月の、
光や夢の世を早う、
覚めて真如の明らけき、
月の都に住むやらん、
(手ごと)

今は伝てだに朧夜の、
月日ばかりは廻り来て。

(通釈) 磯辺の松の葉に隠れて、沖の方へ沈んで行く月はある方であろうか。夢のようなこの世の迷いから、早く目覚めて、悟りの世界の澄み切った月の都

【極楽浄土】に住んでいるのであろうか。

今は伝【つて、伝言】する行方さへおぼろになり、月日ばかりがめぐつてくる。）

気高く気品に満ちたこの曲は、詩を見ても分かるように、深い情を感じる。

曲全体を聴くと、ゆっくりとした前弦まえびきからはじまり、前唄は渋く重々しい。そして手事は、技巧の限りを尽くした五段のちらしは、華やかながら、けつしてきらきらしすぎない。むしろ、いぶし銀のような深みがある。この華やかさのある調ていどべには、死者に手向けの献花の意味があるという。後唄はかなり短いが、哀切きわまりない悲しみが伝わってくる。そしてたつぷりと余韻を残し、初めて聴いた曲なのに、いつまでも忘れることができない。鎮魂と追憶とが凝縮されている。

「残月」はこのように格調の高い、均衡の取れた出来栄えから見ても、勾当が、夭折した弟子の死を、どれほど惜しんでいたかが容易に推測される。磯辺の松の葉に隠れて入ってしまった月は、この娘なのである。松の葉に隠れても、彼の心には澄み切った月が映じているのではないだろうか。

後唄の、いとおいしい人は去ってしまい、別れて、もう語りあえる相手はなくなり、月日ばかりがむなしく

過ぎてゆく。こんな悲しい思いを経験している人は多いのではないか。わたしたちの心を打つのは、こんな共通性をもっているからであろう。

松屋某の娘が何歳で亡くなったのか、そのとき峯崎勾当が何歳であったのか、確かなことは分からない。幾つかの解説を見ると、「残月」という曲名は、娘の法名「残月信女」からとったのだと言う。また、中国の「杜子美」の詩によるものだということも分かった。

わたしがこの曲を初めて聴いたのは、もう三、四十年前も前の、知人のお琴のおさらい会へ行つたときである。なんとも言えない荘厳さ！しかも手事の部分では華麗である。曲名も作曲者も、どなたが演奏しているのかさえわからなかったが、ただ心が引き締まるような思いがした。

お琴のおさらい会というのは、一人（あるいは二人）の師匠の門人たちの、日頃のお稽古の成果を発表する会で、1日に30曲近く、お琴や三味線が演奏される。わたしが初めて行つたおさらい会は、プログラムの一切を読んでいただかなかつた。その日、聴いていると、この忘れたい曲が出てきたのである。あとでプログラムを見ていただいて、峯崎勾当の「残月」と分かつた。それから何度かこの曲を聴いているうち

に、ラジオの邦楽の時間で、勾当の門人の中のひとりの娘が夭折し、その追善に作曲されたのだと知り、その気高さの訳が理解できた。そして最初に思つたのは、若くして逝つた娘の無念さ、肉親たちの悲しみ、恐らくこの道に秀でた才能を持ち、心根の優しい人柄をも想像され、師匠の勾当から大切にされたであろうことなど思い合わせて、この高貴な曲が生まれたのだろうということである。

わたしは友人からいただいた、二種類の違ったタイプの「残月」のカセットテープを持っている。京、大阪系の「残月」を代表するような、米川文子さんと米川敏子さんのお琴と三弦のものと、九州系を代表する矢木敬二さんの三弦と山口五郎さんの尺八の演奏である。今のところコウオツ付けがたい魅力をもっている。ときどきではあるけれど、気分併せて楽しんでる。

* 参考―「山戸朋明のホームページ」、
「邦楽入門」（杉昌郎、文献出版）、
「邦楽百科辞典」（音楽之友社）、
「先師の足跡」（中塩幸祐、日本盲人会連
合音楽部会）

「生田、山田両流琴歌全解」（今井通郎、武蔵野書院）、その他

2009年12月3日

東京漢点字 学習会報告

東京漢点字羽化の会 菅野良之

平成21年度 第6回 (第30回) 報告

1 日時 平成21年9月19日 (土)

18時30分～20時30分

2 場所 ヒューマンプラザ7階 第1会議室

3 出席者 (省略)

4 使用教材 「漢点字講習用テキスト 初級編

第三回 (全十回)「点字編、墨字編

レーズライター…父、母、上、中、下、右、左、

大、小、出、入、天、太、夫、片、高

5 学習内容

(1) 連絡事項 (省略)

(2) 前回の復習

117 「防」 つくりの「方」は堤防を意味し、土を盛って外からの害を防ぐ。

118 「明」窓から月の光が射し込み室内を明るく照らす様。

119 「庫」訓読みの「くら」の熟語として、

「兵庫(つわものぐら…武器庫)」「庫だし」「庫移し

(くらうつし)」「や名前に用いる。

120 「連」

121 「更」他の熟語として、「更科(さらしな)」「今更(いまさら)」「殊更(ことさら)」「地名に「木更津(きさらづ)」「などがある。

(3) 今回の学習内容 テキスト第三回、

複合文字 (1)

7. 漢数字および第1基本文字を部首とした文字(7)

* 更(一)日(リ下がり…2・3・6の点)と人

(ナ…1・3の点)を含む文字

122 「便」第2人偏(4・6の点)と人(ナ

…1・3の点)で表し、日の部分は省略。字式は人

偏+更。音読みのベンは呉音、ピンは慣用音、ヘンは

漢音。訓読みに「よすが」がある。熟語には、「穩便

(おんびん)」「軽便(けいべん)」「方便(ほうべん)

「便乗(びんじょう)」「不便」などがある。

* 能(ラ…1・5の点とノ…2・3・4の点)と

能をパーツとして含む文字1つ。

123 「能」月(ラ…1・5の点)とノで表

す。字式はム/月+ヒ/ヒ。水の中の虫の形からきて

いる。右側のヒ/ヒは虫の足を意味する。音読みのノ

ウは呉音。訓読みには「はたらく」「え」名前に

「よし」がある。熟語には「万能」「技能」「知能」

「芸能」「効能」「性能」「本能」「才能」「地名に

「能登」「能代」などがある。

124 「態」月(能のノは省略)と心(ル下が

り・2・5・6の点)で表す。字式は能/心。音読み
のタイは漢・呉音。訓読みに「さま、わざわざ、なり
がある。熟語に「形態」「擬態」「事態」「重態」
「媚態」「態様」、他に「虚態(そらわざ)」「負態
(まけわざ)」「態々(わざわざ)」など。

4 基本文字(3) 比較文字

1. 対、あるいはグループをなす比較文字(1)
比較符号(4・5の点)を用いて表わす。

* 「父」と「母」

(1) 「父」 ㇿ 4・5の点とチ(1・2・3・5
の点)で表わす。音読みのは漢音。交差する形は、
刈る、切るという意味を持つ。熟語に「伯父・叔父・
小父(おじ)」「秩父(ちちぶ)」「岳父(がくふ)
」「漁夫(ぎよふ)の利」など。

(2) 「母」 ㇿ 4・5の点とハ(1・3・6の
点)で表わす。音読みのは慣用音、ム・モは呉音、
ボウは漢音。熟語は「叔母・伯母・小母(おば)」、
「乳母(うば)」「母屋(おもや)」「雲母(うんも)」、
「入母屋(いりもや)」「鬼子母神(きしもじん)」、
「良妻賢母」他に「安母尼亞(アンモニア)」「水母
(くらげ)」など。

* 「上・中・下」

(3) 「上」 ㇿ 4・5の点とウ(1・4の点)で表
わす。手の平を上に向けた形を意味する音読みはジョ

ウは呉音、シヨウは漢音。熟語に「上人(しように
ん)」「仕上げ」「上期(かみき)」「地名に「上総(か
ずさ)」「名前に「上野介(こうずけのすけ)」など。

(4) 「中」 ㇿ 4・5の点とウ下がり(2・5の
点)で表わす。音読みのは漢・呉音。元は、戦
の際、前衛、中衛、後衛、の陣を敷き、真中の部隊が
掲げる吹流しを意味する。熟語に「中樞」「夢中、霧
中」「道中」「中華」「中庸」地名に「地中海」「中
近東」「中国」など。

(5) 「下」 ㇿ 4・5の点と3・6の点で表わ
す。手の平を下に向けた形を意味する。音読みのは漢
音、ゲは呉音。熟語に「下手(したて、へた)」「
」「以下」「下駄」「下地(したじ)」「下司(げす)」「
」「月下美人」「月下氷人」「下拵(したごしらえ)」「
地名に「下呂(げろ)」「下野(しもつけ)」「他に「
水下魚(こまい)」など。

平成21年度 第7回(第31回) 報告

1 日時 平成21年10月17日(土)

18時25分〜20時30分

2 場所 ヒューマンプラザ7階 第1会議室

3 出席者(省略)

4 使用教材 「漢点字講習用テキスト 初級編

第三回(全十回) 点字編、墨字編

レーズライター…右、左、大、小、出、入、天、
太、夫、片、高

5 学習会内容

(1) 連絡事項 (省略)

(2) 前回の復習

1 2 2 「便」／ 1 2 3 「能」／

1 2 4 「態」

4 基本文字 (3) 比較文字

「比較文字」は、一般の漢字の世界には無い表わし方で、漢点字では指事文字として使われる。一マス目に4・5の点(比)を用いて表わす。

(1) 「父」 (2) 「母」 (3) 「上」

(4) 「中」 (5) 「下」

・上、下に続く同じ漢字でも読みが異なる。上手(うわて、かみて、じょうず) 下手(したて、しもて、へた)。上司(じょうし)、下司(げす)など。

(3) 今回の学習内容

テキスト第三回、複合文字 (1)

4 基本文字 (3) 比較文字

* 「右」と「左」

(6) 「右」 4・5の点と5・6の点で表わす。音読みのユウは漢音、ウは呉音。口の部分はサイを意味する。熟語に「右手(みぎて、めて)」「座右

の銘」「右腕」「右文(ゆうぶん…文学を重んずること)」「右記」など

(7) 「左」 4・5の点とイ下がり(2・3の点)の点で表わす。音読みのサは漢・呉音。熟語に

「左官」「左団扇」「左記」など。

・右、左が入った熟語に「前後左右」「一左右(いつそう…一度の便り)」「右近の橋、左近の桜」「左右に託す…明確にせずその場をにごす」など。

* 「大」と「小」

(8) 「大」 4・5の点とケ(1・2・4・6の点)の点で表わす。音読みのタイ・タは漢音、ダイ・ダは呉音。熟語に「大工」「大地」「偉大」「大事」「大人」「大蛇(おろち、だいじゃ)」「大臣」「大仏」、地名に「大津(おおつ)」「大宰府(だざいふ)」「大阪」「大島」「大分」など。

(9) 「小」 4・5の点とソ(2・4・5・6の点)で表わす。音読みのショウは漢・呉音。熟語に

「小説」「小粒」「小賢しい」「小春日和」「小夜(さよ)」「小町」、地名に「小樽」「小笠原」「小倉」「小田原」「小豆島」他の読みとして「小角(くだぐえ…小さい笛)」「大小を含むものとして「莫大小(メリヤス)」「大豆(だいず)」「小豆(あずき)」などがある。

* 「出」と「入」

(10) 「出[⋮]」 4・5の点とへ (1・2・3・4・6の点) で表わす。音読みのシュツ・スイはいずれも漢・呉音。熟語に “出家” “出世” “門出” “出色” “小出し” “出納 (スイトウ)” “露出” “出初 (でぞめ)” “出水 (いずみ)” “出梅 (つゆあけ)” “地名に “出石 (いずし)” “など。

(11) 「入[⋮]」 4・5の点とナ (人・1・3の点) で表わす。音読みのニューは呉音、ジユウは漢音、ジユは慣用音。訓読みに “しお” がある。熟語に “介入” “輸入” “入浴” “入魂 (ジツコン)” “入水 (ジスイ)” “絶入 (ゼツジユ・気絶する)” “入梅 (つゆいり)” “幾入 (いくしお・布を幾度か染める)” “初入 (はつしお・紅葉し始めること)” “一入 (ひとしお・ひときわ)” “白八入 (しろやしお・ツツジの一種)” “一入再入 (イチジユウサイジユウ・布を何度も染める)” “など。

* 大の近似文字

(1) 「天[⋮]」 1の点とケ (1・2・4・6の点) の点で表わす。音読みのテンは漢・呉音。訓読みに “そら” がある。熟語に “天晴れ (あつぱ・れ)” “天体” “天氣” “天辺 (テツペン)” “天才” “天邪鬼 (あまのじゃく)” “天皇 (てんのう、すめらぎ)” “韋駄天 (イダテン)” “天麩羅、他の読みとして “天牛 (かみきりむし)” “天蛾 (すずめが)” “

“信天翁 (あほうどり)” “天糸瓜 (へちま)” “天鷲絨 (ビロード)” “地名に “天橋立” “天塩” “高原” “天草” など。

(2) 「太[⋮]」 2の点とケで表わす。音読みのタイは漢・呉音、タ・ダは慣用音。音読みにはなはだしい、おお、もと、名前にふとし。熟語に “太刀” “丸太” “太子” “明太 (めんたい)” “心太 (ところてん)” “地名に “樺太” “太宰府” “太秦 (うずまさ)” “伊太利 (イタリヤ)” “濠太刺利 (オーストラリヤ)” “奥太利 (オーストリア)” “太平洋” など。

見果てぬ夢を (十八)

山本 優子



十六 見はてぬ夢を (承前)

一九一一年 (明治四十四年) 三月の学期が終了した時点で森は潔く身を引き、訓盲院を去った。増江のうちには、苦いものが残った。

森は、その後私立神戸盲人技術学校を開設し、校長として教育に尽くした。後の一九二五年 (大正十四年) に当校は、「神戸盲学校」となった訓盲院と合併する。さらに県立に移管され、「兵庫県立盲学校」へ

と発展するための道筋を作ることとなった。

一九一二年（明治四十五年）を迎え、増江宛に一通の手紙が舞い込んだ。差出人は、中村京太郎だった。

中村は孝之進とも親しかった好本督の援助を受け、文部省からも若干ながら奨学資金をもらい、ロンドン留学に旅立とうとしていた。五月に横浜を出て神戸にも寄港するのでお会いできないかというものだった。少年時代に失明した青年が一人英国に旅立ち、学ぼうとしている、何と急速に時代は変わろうとしていることかと増江は心打たれた。出発前の中村に少しの時間でも会って話を聴いてみたくなつた。

中村京太郎は一八八〇年（明治十三年）静岡県浜名郡の農家に生まれた。幼少からの眼疾のため小学校に入学したが一週間で退き療養に専念した。が、失明に至った。もともと聡明だった中村は両親の同意を得、十四歳の時、東京盲啞学校に入学した。そこで学校長の小西信八に見いだされ、一九〇〇年（明治三十三年）、二十歳の時日本で最初の盲啞学校普通科教員となり、一般教員と同等の待遇を受けることとなった。そこで四年一ヶ月の教員生活の後、台湾の慈恵院盲教育部の二代目部長として迎えられた。そこで七年間勤める間にキリスト教信仰を持ち、好本督の助けもあって英国留学に赴こうとするところだった。

中村は八十五年の生涯の間、日本の盲教育、点字新聞の発行から「点字毎日」の主筆者、盲婦人ホームの設立ほか、数えきれないほど多くの業績を残すこととなった。

その中村が増江に宛てた手紙の中で、熊谷鉄太郎（くまがい てつたろう）という全盲の人物を神戸訓盲院で雇ってはもらえないかと紹介してきた。横浜訓盲院や同愛訓盲院で教員経験を積んだという熊谷は、東京盲啞学校で中村の教え子でもあった。関係者に異存はなかった。熊谷をその春から英語教師として迎える方向で増江と関係者は面接をすることにした。熊谷が訓盲院を訪ねてくることになっていた日、増江は駅まで迎えに行った。三歳の時天然痘が原因で失明したと履歴書に書いてあったので、日常生活にもかなり不自由な人物を想像していた。ところが、前もっての連絡がうまくいっていなかっただけか熊谷を見つけたとができなかつた。不安になりながら訓盲院に戻った増江を待っていたのは、独りで歩いて訓盲院を探してきたという熊谷だった。増江の前で姿勢を直し、わずかに平坦なアクセントのある言い方で、

「初めまして。熊谷鉄太郎と申します」

と、握手の手を差し出してきた。もうすぐ満三十歳になるといふ彼は長身細身で意志の固そうな顔つきの青年だった。話を聴いているうちに増江はその不遇の

中で挫けることのなかつた不屈の精神と信仰に打たれ、いつの間にか涙を流していた。

熊谷は、一八八三年（明治十六年）北海道の漁村に生まれた。争いの耐えない大家族の中で育ち、家族を顧みず遊び歩く父親のもとから、母親は蒸発。生命が危ぶまれたほどの病とそれによる失明。父親のせいで経済的に破綻した家庭の中でひたすら学校に行きたい、学びたいと熱望する子供時代を送ったこと、十三歳で鍼按摩習得のため弟子入りし、稼げるようにはなつたものの地獄をさ迷うような荒れた生活をしていったこと、十七歳の時、札幌盲学校で学びたいあまり故郷を脱出し、札幌基督教会に導かれキリストを信じたこと、教会の人たちの祈りと支えによって東京盲啞学校に入學し、苦学して英語教師になつたことなど…。

最悪とさえ思われる環境に生まれ育つてきた者でも、これほどの人間になることができるのかと増江は涙をぬぐつた。魂が震えるのを感じていた。孝之進や自分の苦勞など、熊谷のものに比べれば小さいものだったかもしれないとさえ思つた。

熊谷は、一九一二年（明治四十五年）春から神戸訓盲院で英語教師を始めた。増江が期待した以上の抜群の指導力と話術で生徒をひきつけてやまなかつた。もちろん学習成果は非常にあがつた。それに、熊谷は薄給に不満をもらすことなど全く無く、礼儀正しく訓盲

院のやり方に従つていた。古いハガキに英単語を点字で打つたものをいつも持ち歩き、寸暇を惜しんで新しい単語を覚えようとしたりと、自己研鑽に励んでいるのだった。増江の孤独で苦しい心は熊谷によつて慰められ励まされた。しかし、熊谷が訓盲院で教えたのはわずか半年ほどだった。翌年四月から関西学院（かんせいがかいん）神学部で学ぶ準備のために惜しまれながら神戸訓盲院を去つていった。熊谷は卒業後牧師となり、国内外で多くの働きをした。

五月のよく晴れた朝だった。増江は神戸港に寄港した中村京太郎と会うために熊谷と関係者の小林卯三郎（こばやし うさぶろう）、卒業生の天野文造を伴い、神戸港に赴いた。出帆の合図が鳴るまでの一時間ほどの間、増江たちは船室で中村と語り合つた。中村は、謙遜と愛情深さがにじみでている人物だった。台湾で盲教育にあつた経験を踏まえ、近い将来日本で盲児たちがもれなくそれぞれにふさわしい教育を受けられるようにしたい、鍼灸按摩と音楽しか盲人の職業はあり得ないという現状を打破し、様々な職業が選べるようにしていきたいといった夢を齒切れよく語つた。キリスト教信仰に立つた情熱と開拓精神に、増江は終始ひきつけられ、話にのめりこんでいた。

（つづく）

漢点字訳書紹介

『詩的リズム―音数律に関するノート』

左は今回漢点字訳された、菅谷規矩雄著『詩的リズム―音数律に関するノート』の、著者の序文の一部です。「精読下さい。」

序

ある時期、とりわけ少年時にひとりの詩人に傾倒することがあつたとして、その〈体験〉のもつともおおく深く、したがつてもつとも自覚のとどきにくいところで、対象化〓批評をこぼんでさいごまで残存する〈影響〉はなんであろうか―そう問いをたててみると、これまで閉ざしてきたなものかが、無言のさらに下層でかすかにうごきはじめる。この領域におそらく〈韻律〉はひそかにしかしはげしく住みついているのだ。

短歌や俳句そして初期近代詩を定型詩とみるかぎりでは、わたしは〈定型〓韻律〉のまったく対極で、どこまでも〓詩を散文のように〓書こうとする意図をもちづづけている。批評を書くことは、一篇の詩作品を書くことによつて不可避的に形成される言語の定型性〓美的様式を、そのたびごとにみずからつきぎらず、いわば発語の根拠へ、現実の根柢へおのれの言語をひ

きもどす解体作業なのである。だが、そのようにみずから散文的に解体した言語が、〈無言〉の領域でふたび発語へ、さいしよの一行へむかつてかたちをとりはじめめる。その起動力はなににもとめられるか。書きはじめようとす意志は、なにを原基として自立するにいたるか―そこには〈無言〉としての言語のもつとも深層が暗示されている。

はじめに傾倒といったが、それはすでに詩とか文学にとかについてなんらかの自覚を前提にすることである。それ以前、読書という体験のそもそものはじまり、わたしのアドレセンス初期に、まず〈詩〉を刻印した一冊の本がある―たまたまそれが、わが家の片隅につみおかれた数冊しかない本の一冊であつたがゆえに、いつしか読んでしまつていたという偶然が、偶然としてのなにげなさをたもちながらしかも決定的な必然性のごとくに、いつまでも作用しつづけるのである。たしかにわたしは、いまにいたるまで、一冊の啄木歌集をそうした初期的な読書体験の領域で読みつづけている―おのれの批評のなあとどかないところで。そしてそこには、じつさいに短歌をつくつたことのないわたしの、短歌的なるものに関するわずかばかりの〈体験〉のすべてが閉ざされてあるようにおもふ。

初期的体験がさいごまで残存せしめるものは、けつしてなにか赫かしいもの、幸福なるものを意味しはし

ない。むしろそれはわたしの詩的発語を、逆にはるかな発語以前の闇へひきこんでゆこうとするものである。少年時ゆえに、必然的とよばざるをえないのである。少年時におけるわたしの〈啄木〉は、いわばおのれの貧しさを、〃言語における貧しさ〃としてはじめて経験したというにひとしい、暗さとそしてわびしげなわずかばかりの明るさをなしている。それは近代批評のほとんどおよびえない地点、わたしにとつて感動や思想をいうことの不可能な領域に、はじめから存在してしまっている。批評的にとりだそうとすれば、まるでおのれの身体を批評の対象とするような無意味さにおそわれる。歴史的でも個的でもなく、〃生理的〃な存在感とみなすほかないような、あたまがおもくなるような感覚である。そのころのわたしは、いまだ〃不幸〃という意識さえもたしかめえない重圧のなかで、ただ苦痛からのがれることだけを、〃ことば〃として読んでいたのにちがいない。

かなしくも／夜明くるまでは残りぬ／息きれし
児の肌のぬくもり

たとえばこうした歌に、幼い妹の死がむすびついて中学一年ころのわたしをとらえ、記憶ともいえないくるしさがのこるのである。あるいはまた――

夜寝ても口笛吹きぬ／口笛は／十五の私の歌に

しありけり

といった歌にたいしたばあいでも、ひとときの感傷がすぎれば、ついに抒情しえないゆきどまり、〈ちつと手を見る〉感覚がたちどころに意識をおそう。それがわたしの〈生活〉思想の領域ににじみでてくるような意味となることはさええざられるのだ――ここでわたしはいくたびとなく、体験を自己史へと強化することの困難さにゆきあたる。おそらくそれは、日本の〈近代〉にたいしておのれの〈出生〉を意味づけること、同時にそこで〈近代〉の意味をえぐりだすこと――という相关性をくぐりぬける困難さにひとしい。

それは、わたしの〃さいごの〃詩的モチーフの所在を告げているはずだ。しかもそれがわたしの詩法のおよびえない必然性のごとくであるゆえに、かえって先験的にじぶんの詩から排除しようとしてきたのではなかったか。じぶんの詩に七五調が入りこむことを、ほとんど生理的に拒んできた――そうであるかぎり、それを否定的に克服する対象として自覚的にとりだすこともなかったのだ。この一点で詩的には〈近代〉をどのようににもくぐりぬける方途をみうしなっているといわざるをえない。

詩を〃散文のように〃書くことを意図するとはいえ、じっさいわたしは、あるリズムをたしかめえないでどんな一篇をも書きはじめたことはない。しかもそ

れは（内的リズム）といったようなあいまいなものでは決してないと「確心」している。分析の原理をいまだ手にしていないだけなのだ。

しばらくまえに作品の一部をあたうかぎり短歌のリズムにひきよせて書こうとところみたことがある。なぜそうするひつようがあったかは、じぶんでもよく説明できないが、あえて引用するならば、それはつぎのようなものであった。

たちつくすおまえのかげも地上にはない／ 記録係を抹消するおわりからのはじめ／ 必然が仮にもたらすこの一行の運河／ 水さえかたむく音無川をさかのぼる

（一九七二年六月）



「報告と案内」

一 新聞並びに雑誌に、漢点字のご紹介記事が掲載されました

①「点字公明」十一月号

公明党の機関誌・公明新聞の点字版の「点字公明」平成二十一年十一月号に、本会の活動が掲載されました。御礼とともに本誌に転載させていただきます。

漢点字が点字誌に取り上げられることは、今日では極めて稀有なことです。漢点字が唯一の漢字を表す点

字体系であることを、誰もが認めざるを得ないはずです。しかし現在は、悲しいかな、視覚障害者並びにその周辺の健常者に、それを検証するだけの能力と胆力が欠けているように見えます。というのは、そういう人たちの漢点字に対する姿勢が、ただ背を向けて、時季の過ぎるのを待つ、ないものとして無視して過ごして行けばよいというものに見えるからです。努力を惜しまず、正面から取り組もうという人は、残念ながら現れていません。

そんな中であって、公明新聞様の勇氣には、心から感謝申し上げます。ご尽力いただきました横浜市議の大滝先生並びに取材に当たって下さいました中嶋様に、深く御礼申し上げます。

②朝日新聞

朝日新聞・平成二十一年十一月三十日夕刊の、『ニッポン人脈記』の欄に、漢点字の記事が掲載されました。川上先生、村田先生と並んで、岡田と本会の活動がご紹介されました。御礼とともに転載させていただきます。

漢点字が全国紙の文化欄に取り上げられることは、恐らく今回が初めてのことと思われまます。いよいよ触読文字の（漢字）として、市民権を得るステップに差し掛かっているのかもしれない。

願わくは、視覚障害者と漢字について、オープンに

議論できるトポスが実現されればと念じております。と申すのも、漢字の点字体系については、口にするのと一つがタブーとなっているのが現状だからです。各メディア、行政並びに教育関係者、そして一般の皆様にも、視覚障害者の識字とノーマライゼーションについて、忌憚のない議論を展開していただけることを願って止みません。

取材とご執筆に当たって下さいました、朝日新聞社の白石様並びに同社のカメラマンの八重樫様には、深く御礼申し上げます。なお写真の転載は、控えさせていただきます。同紙をご一覽下さい。

③CS通信

直接漢点字には関わりませんが、NDK学園の機関誌「CS通信」十一月号に、岡田の記事が掲載されました。

岡田は、(有)横浜トランスファ福祉サービスの事業に関わって、NHK学園で勉強させていただいております(テキストその他の漢点字訳には、横浜並びに東京漢点字羽化の会の皆様が、全面的にバックアップ下さっております)。その最終段階として、実習が設けられています。その実習をお引き受け下さいましたのが、特養老人ホーム・東京清風園(東京都・墨田区)様です。

その様子を、短い文とともに、「CS通信」に掲載

して下さいました。東京清風園の皆様とNHK学園の先生方に感謝を込めて、本誌に転載させていただきます。

二 漢点字訳書

菅谷規矩雄著『詩的リズム、音数律に関するノート』(一九七五年、大和書房)の漢点字訳が完成しました。

菅谷規矩雄(1936—89)です。

主な著作は

現代詩文庫の詩集の他

「宮沢賢治序説 新装版」大和選書 大和書房

「無言の現在―詩の原理あるいは埴谷雄高論」イザラ書房

『詩的リズム 音数律に関するノート』(大和書房

1975)

著者の菅谷規矩雄(一九三六—一九八九)氏は、詩人の北側透氏の主催する詩と批評誌『あんかるわ』の主要な執筆者として活躍された詩人です。同じく『あんかるわ』に執筆しておられた神山陸美氏が、菅谷氏を以下のようにご紹介しておられます。

《亡くなった詩人の菅谷規矩雄さんの著書には、「発生が現存を貫く」というテーマが繰り返して出てきます。『詩的リズム』のなかで、(31ページへ続く)

女媧 (二)

天地開闢、未有人
 民。女媧搏黄土作
 人。劇務力不暇供、
 乃引絙於泥中、拳以
 為人。故富貴者黄土
 人也。貧賤者絙人也。

女媧は人類を生み出した女神とも考えられていて、神話では、人間の作り方と、貧富の差の由来までも説いています。

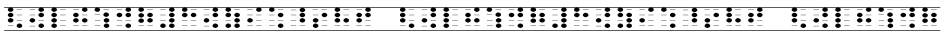
〈参照図書〉奥平卓『漢文の読みかた』
 (岩波ジュニア新書)

天地開闢のとき、未だ人民有らず。

女媧黄土を搏めて人を作る。劇務にして力供するに暇あらず、乃ち絙を泥中に引き、拳げて以て人と為す。故に富貴なる者は黄土の人なり。貧賤なる者は絙の人なり。

黄土||中国の土は一般に黄色い。
 乃||そこで・やむなくの意味の接続詞。
 絙(つな)||繩(なわ)。





天 地 開 闢 ノトキ、未 ダ 有

ラ 人 民。女 搏 メテ 黄 土 ヲ

作 ル 人 ヲ。劇 務 ニシテ 力不 暇 ア

ラ 供 スルニ、乃 チ 引 キ ヲ

於 泥 中 ニ、拳 ゲテ 以 テ 為 ス

人 ト。故 ニ 富 貴 ナル 者 ハ 黄 土 ノ 人

也。貧 賤 ナル 者 ハ ノ 人 也。

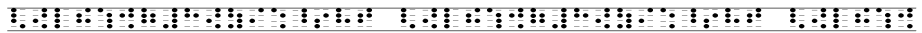
点字文中の「ㇿ」は返り点のレ点、「ㇿ」 「ㇿ」は、
返り点の一・二点を表します。

ㇿ は女媧の媧（か）、ㇿは緇（つな）で、
JISコードにない漢字です。

再読文字 「未」

再読文字の中でもっともよく使われる字で、
「未（いま）ダ…（ず）」と二度読むことにな
ります。「まだ…ない」の意味。
連体形になる場合は、
「未（いま）ダ…（ぎ）ル…」となり、
墨字では右にダ、左にルの送り仮名を記します。
点字では「ル未ダ」の後に返り点の形になります。

未知 未ダ 知ラ いまだ知らず
未亡人 ル未ダ 亡クナラ人 いまだ亡くならざる人
(本来は、夫を亡くした妻が自分のことを謙遜して言う語)








漢点字講習用テキスト

初級編 第十七回

7. 漢数字および第一基本文字を部首とした文字 (7)





この回が、初級編の「漢数字および第一基本文字を部首とした文字」の最後です。




(109) 泳  エイ およ - ぐ

「さんずい」の右側に「永 」を置いた形の文字です。水の中をおよぐことを表す文字です。部首の「永 」は、長く水の中をおよぐことと、「エイ」という音を表します。漢点字では、「 (さんずい)」と「 (永)」で表されます。

「水泳」「日本泳法」「遠泳」「立ち泳ぎ」







(110) 混  コン ま - ざる ま - じる ま - ぜる

「さんずい」の右側に「昆 」を置いた形の文字です。ものが入り混じる様子、入り混じって区別がつかない様子を表します。部首の「昆 」は、「むらがる、まとまる」との意味の文字です。漢点字では、「 (さんずい)」と「 (昆)」で表されます。

* 「昆 」は、「日 」の下に「比 」を置いた形の文字です。「昆虫、昆布」などと用いられます。詳細は中級に譲ります。

「混雑」「混乱」「混迷」「混同」

(111) 財  ザイ サイ たから

「貝 」の右側に「才 」を置いた形の文字です。「貝 」は、貨幣に用いられていた子安貝のことで、貨幣や財産を表します。「才 」は、切り盛りすることを意味して、貨幣をうまく使って生活することも表します。また、社会の経済の部門の意味にも用いられます。漢点字では、「 (貝)」と「 (才)」で表されます。

「財産」「財源」「財宝」「財界」「財政」「財務省」「財閥」「財布」「蓄財」



(112) 社^{示土} シャ やしろ

「示^示偏」の右側に「土^土」を置いた形の文字です。「示^示」は神様を祀る意味、「土^土」は、土を盛って祭壇としたことを表しています。元は土地の神様を祀ったやしろだったのです。つまり、人が集まる場所で、そのような意味になりました。さらに、人が集まって作る組織や集団を指すようになって来ました。漢点字では、「^示」(示偏)と「^土」(土)で表されます。

「社会」「社殿」「社中」「社団」「会社」「神社」「公社」「結社」

(113) 証^{言正} ショウ セイ あか-す あかし

「言^言偏」の右側に「正^正」を置いた形の文字です。“あかす、あかし”、事実を、ありのままに申し立てて、裏付けることを意味します。また、それを表す書類の意味もあります。漢方医学では、“ショウを立てる”と言って、治療法を決める診断を意味します。漢点字では、「^言」(言偏)と「^正」(正)で表されます。

「証言」「証拠」「証券」「立証」

(114) 徒^{行人走} ト かし いたずら-に

「行人^{行人}偏」の右側に「走^走」を置いた形の文字です。“かし”とは、歩いて行くこと、何も使わずに行くことを表します。また、“いたずらに”と読んで、空しい行為、成果の上がない行為を表します。ものを持たない人の集まりをも指して、現在では学童を呼ぶ語でも用いられます。漢点字では、「^{行人}」(行人偏)と「^走」(走)で表されます。

「徒歩」「徒手空拳」「無為徒食」「生徒」「御徒町」「徒歩く」





(26ページから) 日本語で書かれた詩が、インド・ヨーロッパ語のような音韻や韻律によるものでなく、音数律から成るものであることが言われます。七五調や五七調というのを思い浮かべてみてください。歌でも俳句でも自由詩でも、これが、定型としてはたらくだけでなく、独特なインパクトをもたらす場合がいくらかもあります。菅谷さんの説では、それは五音とか七音といった拍音のあいまに、無音の拍が潜勢力のようにこめられているからということになります。まさに、この無音の拍はマルチチュードなのです。》

序文の一部を、本誌に転載させていただきました。

編集後記

▼今号は原稿の都合で、当欄のスペースが狭くなってしまいました。その一因は、羽化の会の

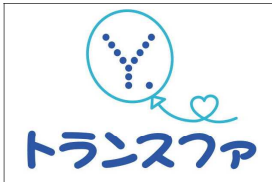
活動を紹介する各種媒体での記事紹介が3つも重なったためですが、岡田さんのたゆまぬ漢字普及への努力の成果がいくらかずつでも世間に認められた結果だと考えられ、嬉しいことです▼2009年、平成21年も間もなく暮れようとしています。今年、当会の大切なお2人、安田章さんと高橋幸子さんを失うという大きな不幸に見舞われました。お2人のご冥福をお祈り申し上げます。(木下)

(有) 横浜トランスファ福祉サービス

障害者自立支援法の下、障害者にガイドヘルパーを派遣して、外出を支援しています。対象は、横浜市在住・在宅の、視覚・肢体・知的重度障害者。

常時募集・ガイドヘルパー：資格・ホームヘルパー2級以上、および視覚・肢体障害者移動介護研修修了。

業務概要：上記障害者の外出支援。詳細は担当・柳田まで。



〒231-0063横浜市中区花咲町1-46-1

GSプラザ桜木町1104

電話： 045-263-0306

FAX： 045-263-0316

E-MAIL (岡田健嗣) : okada_tr_eib@ybb.ne.jp

横浜漢点字羽化の会 URL : <http://ukanokai.web.infoseek.co.jp>

《表紙絵 岡 稲子》 次回の発行は2月15日です。

※本誌(活字版・DAISY版・ディスク版)の無断転載は固くお断りします。